

認知システム特論 II

担当教員	伊藤精英
対象	博士（前期）
科目群	メディアデザイン領域

授業概要

生態心理学、特に出来事が発する音や音楽の知覚と行為と生体反応について、書籍・論文、実験を通じて学ぶ。講義では、書籍や論文を輪読し、必要に応じて簡単な実験演習を行う。

キーワード

生態心理学, 音響学, 音楽知覚

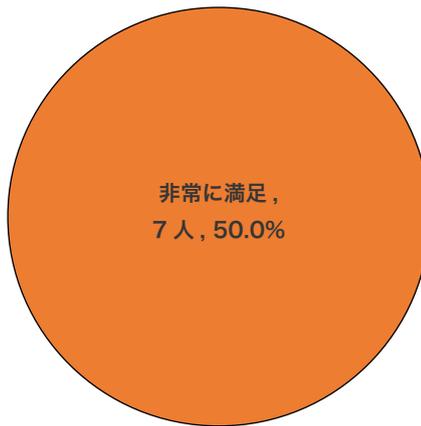
到達目標

・事象音や音楽の知覚と行為が人の気分に与える影響を明らかにする研究分野について知識を深める。

授業フィードバックアンケート結果

授業満足度

非常に満足	5 人	100.0%
満足	0 人	0.0%
コメントあり	0 人	0.0%
不満	0 人	0.0%



授業フィードバックアンケート結果

来年度以降も続けてほしいこと（抜粋）

- 英語論文の輪読は自身で論文を読み解く良い経験になりますし、同時に専門的な知識を解説していただけて非常によい機会でした。また、グループで実験をしたのも、これまで使ったことのない器具を使用できて楽しかったです。
- 英語の論文を輪読することで、自分も力が付いたし他の人の発表を聞くことで、自分の理解度も深まった。
- 輪読と実験で、生徒同士で協力する環境がとても有意義でした。
- 論文の輪読、そのためのスライド制作と参加者との議論、実験などがよかったです。

履修者から後輩へのアドバイス（抜粋）

- 英語の論文を読んでスライドを作成したり、レジュメを書く経験ができる。また、読んできた論文を先生としっかり理解しながら発表ができるので、自分に新しい知識がたくさん蓄えられている気がして楽しかったです。
- とても有意義で、自分自身の研究に応用できそうな内容でした。
- 今年度は生理学的データ、特に自律神経系のデータの扱いを知ることができる輪読と実験を行いました。データの取り方や分析の仕方を知ることができます。

担当教員インタビュー

- Q** この授業を設計・実施する際のポイントを教えてください。
- A** この授業では、生態心理学のうち、特に出来事が発する音や音楽の知覚と行為（例えば、楽器演奏）について取り上げ、事象音や音楽の知覚と行為が人の気分に与える影響を明らかにする研究分野についての知識を深めることを目標にします。講義では、事象生成音の知覚と行為と生体反応、音楽の知覚と行為と生体反応について、受講者が書籍や論文を輪読し、必要に応じて実験演習をします。
- Q** この授業の履修者、またはこれから履修しようと考えている学生へのメッセージをお願いします。
- A** 音の聞こえ、音楽知覚、楽器演奏の心理・生理的影響など、聴覚心理学に興味のある学生を歓迎します。